Q. ３５人学級や３０人学級の検討はしないのですか。

A. 県立高校における学級編制の基準につきましては、**国の「公立高校標準法」に基づく定数基準を基本として設定**しています。
そのため、今後、国において、３５人学級や３０人学級への基準改定や、それに伴う財政措置等の新たな方針が示された場合には、その基準に沿って実施していきます。なお、学級編制基準については、その改善を国に強く求めているところです。

Q. 学びの類型の進学系と普通系の違いは何ですか。

A. **進学系**とは、難関大学への進学を目指し、より高いレベルの学習をサポートする普通科です。
普通系とは、基礎学力をしっかり身につけ、大学進学から就職まで多様な進路をサポートする普通科です。体育・美術・観光・災害科学など、生徒の希望に合わせた幅広い学びを含みます。

Q．普通系高校、職業教育拠点校、idealスクール、学びの多様化学校とありますが、これらの学校の違いを教えてください。

A．　**普通系高校**とは、難関大学を目指すクラスから、基礎学力を固めて進学や就職を目指すクラスまで、生徒の多様な目標に幅広く対応する高校です。

職業教育拠点校とは、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を設けた高校です。

科学技術高校とは、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す高校です。

idealスクールとは、生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の高校です。１～８校時の幅広い授業時間帯を設定するなどのフレキシブルな学び方や、学び直しから国公立大学の受験で必要な科目まで多様な進路希望に応じた教科・科目の設定、チューター制の導入や多様なスタッフによるサポート体制の充実等の特色を備えています。

学びの多様化学校とは、中学校時代に継続的な登校が難しかった生徒を主なターゲットとし、高校進学時に中学時代の学習内容の学び直しを教育課程に組み込みながら、３年間の修業年限で高校卒業を目指す高校です。

Q. 具体の再編・統合はいつ公表されますか。

A. １４年後の高校の姿をお示ししましたが、「具体的にどの高校を再編・統合するか」は、現在公表していません。
不確定な段階で公表すると、受験倍率などに影響を与えるおそれがあるため、**具体的な対象校は、実施の約４～５年前を目安に検討・公表する予定**です。

Q. 再編・統合により通学時間が長くなることについてはどう考えていますか。

A. 高校の再編・統合によって通学時間が長くなり、生徒や保護者の皆さまにご負担をおかけすることや、高校生の移動手段が限られていることは、県としても十分に承知しています。
学校までの距離や交通手段等の制約を受けないよう、**生徒が安心して通えるスクールバスなどの通学手段についても検討していきます**。

Q. 圏域は何をもとに分けているのですか。

A. これまで、県内の高校の配置は7つの地区に分けて考えていました。しかし、少子化によって生徒数が急激に減っているため、今後はより広い範囲で学校のバランスをとっていく必要があります。

そこで、県の教育事務所の担当エリアに合わせて、大崎と栗原を「北部」へ、石巻と登米を「東部」へ統合し、「南部、中部、北部、東部、気仙沼」の５つの大きなエリアへと再編しました。

Q. 現在の学校配置ではどのような課題が発生していますか。再編しなかった場合、どのような問題が考えられますか。

A. 現在、定員割れとなっている学校もあり、同世代の生徒同士が刺激し合って学ぶ環境の維持が難しくなっています。

もしこのままの状況が続けば、今後の少子化でさらに生徒数が減少し、**「習熟度別の授業」や「グループでの探究活動」などを十分に行うことが難しくなってしまいます。**生徒同士が刺激し合い、協力して学べる環境を守るための見直しが必要です。

Q. 再編・統合せずに、小規模校として残した方が良いのではないですか。

A. これから少子化によって生徒の数がさらに減っていくと予想されますが、そのような状況にあっても、**生徒たちが互いに刺激し合って学べる環境や、一人一人の興味や進路の目標に合わせた学びができる環境をしっかりと整えていくことが重要**です。
そのためには一定の規模の学校が必要だと考えています。

Q. 高校は地域コミュニティの維持に重要な役割を果たしていると思いますが、どのようにしていくのですか。

A. 高校は生徒の学びの場としてだけでなく、地域活動との連携などを通じ、地域コミュニティの形成や活性化にも一定の役割を担っていることは承知しております。
一方で、地域コミュニティは高校の存在だけで維持されるものではなく、産業や医療・福祉、交通、子育て環境など、さまざまな要素の支え合いによって成り立っています。
学校の見直しが地域に与える影響を十分に考えながら、生徒たちにとってより魅力的な高校づくりを進めていきます。